

愛媛大学 土木工学科 水工学研究室 近畿地区同窓会 「豊國先生を囲む会」 報告

平成 30 年 10 月 7 日（日）13：00～16：00

神戸三宮 東急 R E I ホテルにて

清水 義博（土木 52 年卒）

山本 英樹（土木 53 年卒）

今夏の猛暑の影響もあってか、ようやく秋の訪れを感じられる季節となった 10 月 7 日に恩師である愛媛大学名誉教授の豊國永次先生をお迎えして、近畿在住の水工学研究室の卒業生の有志が中心となり、日頃から先生とゆかりの深い卒業生にも呼びかけ、平成最後の「豊國先生を囲む会」を開催したところです。

近年の異常気象を反映してか、今年は台風の当たり年で度重なる台風が日本列島を直撃し、各地で被害が生じているところであり、開催日直前にも台風 25 号の接近もあって開催自体が危ぶまれていましたが、出席者の皆さんの日頃の行いの良さもあって、無事、予定通り開催することができました。

昨年、先生がめでたく「米寿」という節目の年をお迎えしたことをお慶びし、ささやかながら「豊國先生の米寿を祝う会」を催して以来、早や一年が経過したところですが、3 連休の中日にもかかわらず、平成 27 年 3 月に愛媛大学教授を退官された松山在住の渡邊政広先生をはじめ、遠くは東京から萩原利宥先輩、高松からは矢野寛さんもはるばる駆けつけていただき、総勢 14 名で今年も盛大に会を催すことができました。

この度の出席者は、先生が大学で卒論を担当し初めて卒業生として送り出した昭和 45 年から昭和 61 年までの卒業生が集まり、年令にして最高齢 71 歳、若くて 58 歳で「古希」や「還暦」の声が聞かれるメンバーが主でしたが、今なお現役で頑張っている方や退職後は NPO 活動等を通じて地域貢献に励まれておられる方もあり、皆さん、様々な方面でエネルギーに活躍されておられます。

約半世紀前に卒業したにもかかわらず、このメンバーが今なお本会に参集していただいていることは、豊國先生の人柄から生まれた魅力と業績の偉大さはもとより、各個人の「人生の師」としての憧れに由来するものではないかと常々感じているところです。

会の進行にあたっては、先生の挨拶から始まり、宴を囲みながら各参加者の大学時代の先生との思い出や近況報告を語ることで時間が過ぎていきましたが、今年で御年 89 歳になられ、来年は「卒寿」を迎えられようとしておられる先生の凜とされたお姿と聡明な話しぶりは、学生時代の私たちの印象や面影と少しも変わっていませんでした。

先生の冒頭の挨拶の中で、遡ること阪神淡路大震災が発生した平成 7 年に 70 歳を迎えられたのをきっかけに健康維持のために今日に至る 23 年間、自宅近くのジム通いを続けられ、現在も週 5 回～6 回、筋トレとエアロビクスとウォーキングマシンで約 2 時間、体力づくりに励んでおられるとの紹介がありました。



先生曰く、先生の若さと聡明さを保つ秘訣は、この鍛錬の賜物であり、参加者一同、先生の継続に対する意思の強さとその熱意に大いに感銘を受けると同時に、私自身、何事にも自制と厳格に取り組みされる先生の考え方に改めて身の引き締まる思いがしたところです。

渡邊先生も現在、愛媛県建設技術センターに勤務されておられますが、大学での水工学研究成果を生かし、その集大成として下水道部門での研究論文を近々纏め上げるべく努力されておられると

聞き、その意欲と熱意に頭が下がる思いです。

懇談の中では、大学での青春時代に想いを馳せ、豊國先生との強い絆を懐かしむ反面、時には、雨水の都市流出に関する専門的な話も飛び出し、終始、笑いに包まれた和やかな雰囲気です。予定時間を大幅にオーバーする程、大いに盛り上がりました。



総じて、これまで培った社会経験や豊かな人生経験から生まれた参加者一同の重みと深みのある話しぶりが特に印象的でした。

両先生を含め参加者にとって有意義な時間を愉しんでいただけたものと思っています。

最後の締めとして恒例の「愛媛大学学歌」を全員で斉唱し、今後の豊國先生と渡邊先生のご健康とご活躍を心から願うとともに次回での再会を誓いつつ散会しました。

本会は、平成元年に発足し、一時の中断時期がありましたが、4年前から本格的に当会場にて復活した経緯がありますが、来年は、豊國先生が「卒寿」を迎えられることもあり、来る10月13日（日）に開催を予定していますので、先生とご縁のある卒業生の皆さんも是非参加して下さい。



後列左から 矢野（55卒）、牧野（56卒）、宮地（56卒）、荒柴（48卒）、続木（61卒）、山本（53卒）、清水（52卒）

前列左から 矢野（46卒）、松浦（46卒）、萩原（45卒）、豊國先生、上阪（45卒）、吉牟田（45卒）、渡邊先生（46卒）